

「金融教育を考える」第8回小論文コンクール

特賞

「需要と供給ってなに？」からはじまる  
経済学習の単元開発

～「西小プロジェクト2011 私たちの暮らしと経済」の実践を通して～

静岡県・焼津市立大井川西小学校 教諭 殿岡 正英

知るぽると  
www.shiruporuto.jp

©金融広報中央委員会 2011

## 1 はじめに

「3.11東日本大震災」のテレビ・新聞から報道される映像や記事は、6年生の児童にとって衝撃的であり、心を揺さぶられるものであった。しかし、テレビ・新聞のニュース報道であり、自分たちの日常生活には直接結びつくものではなく、時間と共に薄れていくものでもあった。本実践は、焼津市内でも実際に見られた「3.11東日本大震災」後のもの不足現象を、経済的な視点でとらえ経済の仕組みを調べ学び、本校の特色ある行事である「街道カーニバル・子ども門前市」へと発展させていく実践である。

「街道カーニバル・子ども門前市」は、11月に大井川商工会と6年生児童が協同で実施する地域・学校が一体となる行事であり、児童にとっては、修学旅行と同様に最も楽しみにしている行事でもある。本実践は、「街道カーニバル・子ども門前市」でものを販売する体験を、経済的な活動の一環としてとらえ、経済の仕組みを調べ学ぶ総合的な学習の時間として教材化したものである。しかし、6年生の児童にとって経済の仕組みはあまりにも複雑であり、調べ学ぶことは容易ではない。そこで、経済の仕組みを次の3つの視点にしばり単元を構成し学習を深める。

- 1 需要と供給とは
- 2 ものの値段の決め方
- 3 需要と供給のバランスが崩れると

本実践は、6年生の児童が総合的な学習の時間「西小プロジェクト2011 私たちの暮らしと経済」において、外部機関の方々の協力を得て経済の仕組みを調べ学んだ5ヶ月間の実践である。

## 2 実践目的【つきたい力】

総合的な学習の時間 「西小プロジェクト2011 私たちの暮らしと経済」

○ものの値段の決め方や需要と供給の関係を、金融・経済教室で考え学習する活動を通して、経済の仕組みを理解し「街道カーニバル・子ども門前市」において値段の決め方などへ活用しようとする参加意欲を高める。

- ・「ものの値段の決め方」や「需要と供給の関係」などの経済の仕組みに関心を持ち、意欲的に調べたり考えたりすることができる。 【学習への態度】
- ・スーパーやコンビニでの聞き取り調査や学習後のふり返りにより、新たな問題を見つけ問題解決に必要な情報を集めることができる。 【問題を見つける力】
- ・焼津信用金庫による金融教室で「ものの値段の決め方」を学び、静岡財務事務所による経済教室で「需要と供給のバランスが崩れると」を学び、経済の仕組みについて考えることができる。 【学ぶ力】
- ・ものを売り買ひする活動や、場面・条件を設定しものの値段を決める活動をすることにより、「街道カーニバル・子ども門前市」での販売体験活動に生かそうとすることができる。 【生活に生かす力】

## 3 実践方法

### (1) 需要と供給とは… 5月「スーパーから消えたものは」

東日本大震災後の3月中旬から4月上旬にかけて、焼津市内のスーパーやコンビニでも水やカップ麺・乾電池などの震災関連商品がもの不足になり店頭から消えた。この事実を、もの不足により空になった商品陳列棚の写真を提示し、原因を考え話し合う活動を単元の導入学習とする。その後、自分たちが考えたもの不足の原因を確かめるために、スーパーやコンビニへ聞き取り調査活動をし、【問題を見つける力】を養う。

次に、東日本大震災後のスーパーの空の商品陳列棚に掲示されていた「東日本大震災の影響により商品の供給が間に合っておりません。皆様のお手元に届くよう数量制限をさせていただきます。」の写真を提示し、需要と供給の意味を調べる。需要はものを買いたい人(消費者)であり、供給はものを売りたい人(販売者・生産者)であることを学び、児童は日常的には需要する側であるが、「街道カーニバル・子ども門前市」においては、供給する側になることを知らせ、単元の学習意義を伝え学習意欲を高め【学習への態度】を身に付ける。

### (2) ものの値段の決め方… 6月「金融教室で学ぼう」

スーパーやコンビニへの聞き取り調査活動を体験した児童は、もの不足になると商品の値段が上がる事実をとらえ、

ものの値段の決め方について、外部機関(焼津信用金庫)の協力を得て学習を深める。ものの値段は、日常店頭で目にする商品の材料費や包装費だけではなく、商品を守る店の販売費・商品を運ぶ輸送費・商品を作る工場や会社などの設備費・そして商品を作る人の人件費などからなる。それぞれの費用を、商品を陳列する店から製造する工場の順に考えることで、ものの値段を構成する要素を知り【学ぶ力】を養う。

次に、ものの値段を構成する要素を学んだ児童が、ものの値段を決める体験的な活動を通して、ものの値段は供給側(売り手)と需要側(買い手)どちらか一方が決めるのではなく、売りたい値段と買いたい値段が同じになったとき、ものの値段が決まることを体験し、【学ぶ力】を養う。そして、「店では、ものの値段をどのようにして決めているのか」を学習問題とするなど、【問題を見つける力】を養う。これは、「街道カーニバル・子ども門前市」での商品の値段の付け方につながり、【生活に生かす力】を身に付けることになる。

### (3) 需要と供給のバランスが崩れると…7月「経済教室で学ぼう」

ものの値段は供給側(売り手)が一方向的に決めるのではなく、供給側が需要を予測し消費者の意識を把握して決めることを学んだ児童は、東日本大震災後のようにもの不足になると、「ものの値段はどうなるのか」を学習する。需要が供給を上回っているため「ものの値段は上がる」と考え、需要側(消費者)としてその問題点に気づく。しかし、その反対に供給が需要を上回ると「ものの値段が下がる」ことに対しては、常に消費者である児童にとっての問題意識は薄い。そこで、外部機関(静岡財務事務所)の協力を得て「ものの値段が下がる」ことの問題点について、学習を深め【学ぶ力】を養う。

次に、「ものの値段(物価)が上がる」ことをインフレーションといい、「ものの値段(物価)が下がる」ことをデフレーションとする言葉の意味を理解し、それぞれの状況になる経済の仕組みを考え話し合うことで、【学ぶ力】を養う。ものの値段を安定させるためには、「どのようなことができるか。何をすればよいか」を考え話し合い、物価安定に大きな役割をはたす日本銀行に着目させる。日本銀行が、物価安定のためにとっての政策を調べる個人課題を設定することにより【問題を見つける力】を養う。

この3つを視点とし学習を深めることにより、経済の仕組みを理解し、8月の夏休みの個人課題「日本銀行の役割を調べよう」、9月の修学旅行での「日本銀行を見学しよう」、そして10月からの「街道カーニバルを成功させよう!」につなげたいと考えた。

## 4 実践経過

### (1) 需要と供給とは…5月「スーパーから消えたものは」

東日本大震災後の3月中旬から4月上旬にかけ、自分たちが住む焼津市内のスーパーやコンビニでも、水やカップ麺・乾電池などの防災関連商品を中心にしたもの不足現象が起きたことを知っていた児童は、学級児童数の1/3程度であった。このため、焼津市内のスーパーの商品陳列棚にペットボトル水がない写真提示は、もの不足は被災地の東北地方や関東地方だけの問題であり、自分たちの住む焼津市には関係がないと思いこんでいた児童にとっては衝撃的な写真であり、単元の学習問題を提起し、スーパーやコンビニへの聞き取り調査活動を動機づけるには十分な資料となった。この資料提示からの聞き取り調査活動を通して、【問題を見つける力】を養うことができた。

焼津市内のスーパーやコンビニで、もの不足現象が起きたことを知っていた児童が少なただけに、空の商品陳列棚を目にした時、そこに掲示されていた供給不足による「数量制限」の張り紙を読んだりした児童は数人しかいなかった。そこで、「数量制限」が書かれた写真を提示し、文章の意味を考え話し合うと共に、需要と供給の言葉の意味を調べた。需要はものを買いたい人(消費者)であり、供給はものを売りたい人(販売者・生産者)であることを学び、自分たちは常に需要する側であるが、11月の「街道カーニバル・子ども門前市」においては、供給する側になることを確認した。そして、6年生で学ぶ総合的な学習の時間のテーマ「西小プロジェクト2011 私たちの暮らしと経済」と学習内容を伝え、学習意欲を高め継続する【学習への態度】を身に付けることにつながった。

### (2) ものの値段の決め方…6月「金融教室で学ぼう」

スーパーやコンビニでの聞き取り調査活動を体験した児童は、同じペットボトル水でも店によって値段に違いのある

ことに気づき、「ペットボトル水の値段は、どのようにして決まるのだろう」が学習問題となった。ものの値段の決まり方について焼津信用金庫の協力を得て学習を深めた。ペットボトル水の値段は、児童が店頭で目にする商品の材料費や容器・包装費だけではなく、商品を売る店の販売費・商品を運ぶ輸送費・商品を作る工場や会社などの設備費・商品を作る人の人件費などの様々な費用(コスト)がかかっていることを理解し、ものの値段の構成要素を知り【学ぶ力】を養うことにつながった。

ものの値段を構成する要素を学んだ児童に、売り手と買い手にわかれものの値段を決める体験的な活動を取り入れた。この体験的な活動を通して、売り手の立場では気づかない消費者意識の問題や、買い手の立場では気づかない原価・利益の問題など、それぞれの立場の考え方を知ることにより、ものの値段を設定する条件には複数の要素があることに気づき、考えが広がり【学ぶ力】を養うことができた。また、売り手は、原価に利益(もうけ)を上乗せして値段を設定するが、利益(もうけ)幅をめぐって買い手との値段の交渉になった。ものの値段は供給側(売り手)と需要側(買い手)どちらか一方が決めるのではなく、売りたい値段と買いたい値段が同じになったとき、ものの値段が決まることを体験し、「店では、ものの値段をどのようにして決めているのか」を学習問題とするなど、【問題を見つける力】を養い、「街道カーニバル・子ども門前市」でのものの値段の付け方を考える【生活に生かす力】を身に付けることにもつながった。

### (3) 需要と供給のバランスが崩れると…7月「経済教室で学ぼう」

ものの値段は、供給側が一方的に決めるのではなく、供給側が需要を予測し消費者の意識を把握して決めることを学んだ児童に、東日本大震災後のように「もの不足になると、ものの値段はどうなるのか」を学習問題とした。消費者がたくさんいるのに商品が間に合わないで「ものの値段は上がる」と考え、消費者としての問題点に気づいた。しかし、反対に供給が需要を上回り「ものの値段が下がる」ことに対しては、消費者である児童にとってはよいことであり、問題意識はほとんどなかった。そこで、静岡財務事務所の協力を得て、ペットボトル水を例に「ものの値段が下がることは、いいことなのだろうか」を学習問題とし学習を深めた。ペットボトル水の値段を下げるには、「製造・販売経費を圧縮する必要がある」→「そのために製造・販売にかかわる人の人件費も下げられる」→「そこで働く人の給料が下がる」→「給料が下がるとものを買わなくなり景気が悪くなる」→「景気が悪くなるとものが売れないので、ものの値段をもっと下げる」→「そのために人件費をもっと圧縮し、給料をもっと下げる」という経済の仕組みを学習し、ものの値段が下がることは、いいことばかりとは限らない経済の仕組みを知り【学ぶ力】を養うことができた。

経済の仕組みとして、「ものの値段(物価)が上がる」ことがインフレーションであり、「ものの値段(物価)が下がる」ことがデフレーションであることを理解し、それぞれの経済の状況を考え話し合うことで、【学ぶ力】を養った。ものの値段(物価)を安定させるためには、「どのようなことができるか。何をすればよいか」を考え話し合い、物価安定に大きな役割をはたす日本銀行に着目させることができた。日本銀行の物価安定政策を調べる夏休みの個人課題を設定し【問題を見つける力】を養うことができた。

### (4) 日本銀行について調べる…8月「日本銀行の役割を調べよう」

日本銀行の役割について、夏休み期間中の課題としインターネット検索や図書館での書籍を活用して個人学習で調べた。「お金が社会全体に行き渡るための金融の仕組み」→金融システム安定、「お札に使われている高度な偽造防止技術」→お札の発行、「物価安定のために日本銀行が行う金融政策」→物価の安定などを調べ、個人での調べ学習であったが【学ぶ力】を養うことができた。

日本銀行では、東日本大震災による電力不足の節電対策のため、7月から9月までの3ヶ月間すべての見学受け入れを中止した。このため、9月の修学旅行時における日本銀行の見学は実施できず、かわりに、日本銀行より「知るほど なるほど!日本銀行」のビデオを借り学習を進めた。また、日本銀行のホームページより「バーチャル見学ツアー」も活用した。

## 5 実践成果

本実践は、児童が、東日本大震災後のもの不足の現象から需要と供給の関係を知り、ものの値段の決まり方や物価安定のためには需要と供給のバランスが大切であることを学ぶ総合的な学習の時間の実践であった。この実践を通して、

経済の仕組みが自分たちの生活に大きくかかわっていることを理解し、「街道カーニバル・子ども門前市」への参加意欲を高めることもできた。本実践の成果を、実践目的でかかげた【つけたい力】で検証する。

【学習への態度】…経済の仕組みを学ぶことは、児童にとっては聞き慣れない言葉の連続であったが、外部機関との事前打合せを密にし、わかりやすく授業をしていただいたおかげで、経済の仕組みについて関心をもち意欲的に調べたり考えたりする学習の態度が身に付いた。

【問題を見つける力】…経済の仕組みについて関心をもち意欲的に調べたり考えたりする学習の態度が身に付いたため、聞き取り調査や毎時間後のふり返りによって、問題を見つける力が高まった。

【学ぶ力】…焼津信用金庫による金融教室や静岡財務事務所による経済教室で新たな問題が生まれ、「学習問題→課題設定→課題解決(調査活動)→新たな学習問題」の学習サイクルが確立し、児童一人一人の学ぶ力を養うことができた。

【生活に生かす力】…ものを売り買いする体験的な活動やものの値段を決める体験的な活動をすることにより、「街道カーニバル・子ども門前市」での販売体験活動に生かそうとする力を養うことができた。

## 6 おわりに

10月には、外部機関(大井川商工会)の協力を得て商業教室を実施する。そこでは、実際に「街道カーニバル・子ども門前市」で出店する10数名の方々を学校にお招きし、各店ごとに担当児童と仕入れ方法・販売・接客サービスなどの打合せをする。この商業教室での打合せをスタートとして、担当商店を訪問して販売価格や販売個数を決定したりサービスの方法を相談したりする。このような準備を重ね11月の「街道カーニバル・子ども門前市」が開かれる。

「街道カーニバル・子ども門前市」が、児童にとって今まで学習した経済の仕組みを、より身近に感じられる体験となることを願い論を閉じる。

---

### <参考文献>

梅沢昌太郎『とれたてトマトがスーパーにならぶまで 流通のしくみ』ポプラ社、1990年

影山清四郎監修『調べて学ぶ日本のしくみ(2) 経済とくらし』大日本図書、1998年

久保田晃『お金のなし』さ・え・ら書房、1984年

日本銀行『『日本銀行』と私たちのくらし ～お金と金融の働きを学ぶ』

URL <http://www.boj.or.jp/z/kurashi/index.htm>



## 資料1 6年生 総合的な学習の時間の計画

焼津市立大井川西小学校

題材名	西小プロジェクト2011 私たちの暮らしと経済
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域商店での聞き取り調査や個人テーマにおける調査活動を通して、問題解決に必要な情報を集めることができる。</li> <li>・焼津信用金庫による金融教室や静岡財務事務所による経済教室で需要と供給の関係を学び、経済の仕組みとはたらしきについて考えることができる。</li> <li>・日本銀行の見学や街道カーニバルでの販売などの体験的な活動を通して、経済についての興味・関心を高めることができる。</li> <li>・個人テーマで調べたことや体験的な活動をまとめ、発表することができる。</li> </ul>
学習計画	<p style="text-align: center;"><b>経済の仕組みを調べよう!</b></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p><b>5月</b> <b>スーパーから消えたものは</b> (商店での聞き取り調査)          調査1「東日本大震災後にスーパーやコンビニから消えたものはなんだろう」          東日本大震災後にスーパーやコンビニから消えたものを商店で聞き取り調査をする。</p> <p><b>6月</b> <b>金融教室で学ぼう</b> (焼津信用金庫による金融教室)          調査2「ものの値段は、どのようにして決められるのだろう」          ものの値段は、材料費・人件費・輸送費など様々な要素で決定されることを理解する。</p> <p><b>7月</b> <b>経済教室で学ぼう</b> (静岡財務事務所による経済教室)          調査3「需要と供給のバランスが崩れるとどうなるのだろう」          インフレやデフレにより物価(ものの値段)がどのように変化するか調べる。</p> </div> <p style="text-align: center;"><b>日本銀行について調べよう!</b></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p><b>8月</b> <b>日本銀行の役割を調べよう</b> (夏休みの課題・個人テーマ)          調査4「インフレやデフレの物価安定における日本銀行の役割を調べよう」          個人テーマを設定し、インターネット検索や書籍による調査活動に取り組む。</p> <p><b>9月</b> <b>日本銀行を見学しよう</b> (修学旅行時の見学)          調査5「日本銀行にはどのような施設・設備があるのだろう」          日本銀行を見学し、その役割から施設や設備についての理解を深める。</p> </div> <p style="text-align: center;"><b>街道カーニバルを成功させよう!</b></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p><b>10月</b> <b>街道カーニバルの準備をしよう</b> (大井川商工会による商業教室)          調査6「仕入れ・販売・サービスについて調べよう」          商品の仕入れ・販売方法・サービスなどから、値段の決め方を考える。</p> <p><b>11月</b> <b>街道カーニバルを成功させよう</b> (街道カーニバル販売体験)          調査7「どのようにして商品の値段を決めればいいのか」          需要と供給のバランスから適正な市場価格を考え、商品販売の体験をする。</p> <p><b>12月</b> <b>調べたことを発表しよう</b> (参観会でのコーナー発表)          「個人テーマ」「日本銀行について調べたこと」「街道カーニバル販売体験で学んだこと」などを、各コーナーごとに発表する。</p> </div>

## 【外部機関】

6月(金融教室外部講師)	焼津信用金庫
7月(経済教室外部講師)	静岡財務事務所
9月(修学旅行時の見学)	日本銀行 ※見学中止
10月(商業教室外部講師)	大井川商工会
11月(販売体験外部講師)	大井川商工会

※ 日本銀行は、東日本大震災による電力不足の節電対策のため、7月から9月までの3ヶ月間すべての見学受け入れを中止した。このため、9月の修学旅行時における日本銀行の見学は実施できず、かわりに、日本銀行より「知るほど なるほど!日本銀行」のビデオを借り学習を進めた。また、日本銀行のホームページより「バーチャル見学ツアー」も活用した。

資料2 単元構想 「経済の仕組みを調べよう！」

23時間扱い

主 な 学 習 活 動	■ 留意点 ※ 支援 (評) 評価
<p><b>スーパーやコンビニから消えたものは？</b> ①②</p> <p>○資料を手がかりに品不足になった商品について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 春休みの頃、スーパーからペットボトル水がなくなった。</li> <li>• 同じ頃、カップ麺もコンビニからなくなった。</li> <li>• ホームセンターでは、電池や懐中電灯がなくなった。</li> <li>• パンも売っていないことがあった。</li> <li>• 地震の後で、買い占めする人が増えたからいろいろな商品がスーパーやコンビニからなくなったんだ。</li> <li>• 買い占めの話は、ニュースで見たり新聞で読んだりした。</li> <li>• 家の人も地震が心配で、カップ麺を買ってきた。</li> <li>• 需要…商品を買いたい人(消費者) → 日常</li> <li>• 供給…商品を売りたい人(販売者) → 街道カーニバル</li> </ul>	<p>■ 焼津市内のスーパーで、一部の商品(ペットボトル水)がなくなっている商品陳列棚の写真を提示する。</p> <p>■ 関東地方での品不足の写真を提示し、東日本大震災によって一部の商品が品不足になった事実を想起する。</p> <p>※ 需要と供給のバランスが崩れると、品不足が生じることを理解させる。</p> <p>■ 総合的な学習の時間では、「街道カーニバル」に向け学習を深めていくことを知らせる。</p> <p>(評)地震関連の商品がなくなっていることを確認し、聞き取り調査への意欲を高めることができたか。【学習への態度】【問題を見つける力】</p> <p>※ 聞き取り調査の手順・方法・計画を確認し、主旨を理解し調査に出かけられるようにする。</p>
<p><b>東日本大震災後に、スーパーやコンビニからペットボトル水が消えたのはなぜだろう。</b> ③④⑤</p> <p>調査1「東日本大震災の後で、スーパーやコンビニから消えたものはなんだろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 質問内容を話し合い、品不足になった商品だけではなく、その原因や店の対応などについての予想をたてる。</li> <li>• 聞き取り調査の手順・方法・計画を確認する。</li> <li>• 個人で聞き取り調査に出かけ、聞き取った内容をワークシートにまとめる。</li> </ul>	<p>■ 調査したことを発表し、この学習を「街道カーニバル」にどのように生かしていくか考える。</p> <p>(評)需要と供給のバランスが崩れると、買う人(消費者)と売る人(販売者)の双方が困ることを考えられたか。【学ぶ力】【問題を見つける力】</p>
<p><b>調査したことを発表しよう。</b> ⑥⑦</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 品不足になった商品(ペットボトル水・カップ麺・乾電池など)を発表する。</li> <li>• 商品名だけではなく、品不足になった原因やその時の店の対応についても発表する。</li> <li>• 品不足になったお店の人(供給者)の気持ちや、買いに来た人(需要者)の気持ちについても聞き取り発表する。</li> <li>• 品不足になった原因についても話し合う。</li> </ul> <p>○学習のふり返しをし、「街道カーニバル」では、商品を供給する側になることを確認後、今後の学習課題を考える。</p>	<p>■ ペットボトル水をモデルに品不足の状況を作り、ものの値段が上がるか下がるか考える。</p> <p>※ ペットボトル水1本(供給)に対し、買う人(需要)をはじめは2人でその後4人に増やし、これを図で表し思考の流れをつくる。</p> <p>(評)経済の仕組みとして、供給不足になるとものの値段は上がることを考えられたか。【学ぶ力】</p>
<p><b>品不足になるとものの値段は、上がる？ それとも下がる？</b> ⑧⑨</p> <p>○東日本大震災後のように、品不足(供給不足)になるとものの値段はどうなるか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 上がる…買いたい人がたくさんいれば、お金はあるのでペットボトル水の値段は上がる。</li> <li>• 変わらない…お店の人は(供給)、いつも同じ値段で売りたいのでペットボトル水の値段は変わらない。</li> </ul> <p>○学習のふり返しをし、今後の学習課題としてものの値段について学ぶことを知らせる。</p>	<p>■ 商品そのものの値段の決めり方について、ペットボトル水を例にして考える。</p> <p>■ 水にも値段があり、学校や家庭で使用水道水も使用料を払っていることを確認する。</p> <p>■ 水・容器・ラベルの値段をまとめ材料費とする。</p> <p>※ 外部機関の焼津信用金庫による「金融教室」の支援を受け学習を深める。</p> <p>※ ペットボトル水を作る工場・そこで働く従業員・輸送用トラック・販売するスーパーなどの図を提示し、販売現場から生産現場へと思考を深める。</p>
<p><b>ものの値段は、どのように決まるのだろう？</b> ⑩⑪</p> <p>○ペットボトル水を見てわかるものを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 中身の水の値段・容器の値段・ラベルの値段 → 材料費</li> </ul>	<p>■ 商品そのものの値段の決めり方について、ペットボトル水を例にして考える。</p> <p>■ 水にも値段があり、学校や家庭で使用水道水も使用料を払っていることを確認する。</p> <p>■ 水・容器・ラベルの値段をまとめ材料費とする。</p> <p>※ 外部機関の焼津信用金庫による「金融教室」の支援を受け学習を深める。</p> <p>※ ペットボトル水を作る工場・そこで働く従業員・輸送用トラック・販売するスーパーなどの図を提示し、販売現場から生産現場へと思考を深める。</p>
<p><b>ペットボトル水の値段は、水・容器・ラベルの3つで決まるのだろうか。</b> ⑫⑬⑭</p> <p>調査2「ものの値段は、どのようにして決められるのだろうか」</p> <p>○水の値段・容器の値段・キャップの値段・ラベルの値段だけでペットボトル水の値段が決まると、それを売っているお店のもうけがなくなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ペットボトル水を売っているお店のもうけは？ → 販売費</li> <li>• ペットボトル水を工場から運ぶトラックの費用は？ → 輸送費</li> <li>• ペットボトル水を作る機械の費用は？ → 設備費</li> <li>• ペットボトル水を作る工場働く人の給料は？ → 人件費</li> </ul>	<p>■ 商品そのものの値段の決めり方について、ペットボトル水を例にして考える。</p> <p>■ 水にも値段があり、学校や家庭で使用水道水も使用料を払っていることを確認する。</p> <p>■ 水・容器・ラベルの値段をまとめ材料費とする。</p> <p>※ 外部機関の焼津信用金庫による「金融教室」の支援を受け学習を深める。</p> <p>※ ペットボトル水を作る工場・そこで働く従業員・輸送用トラック・販売するスーパーなどの図を提示し、販売現場から生産現場へと思考を深める。</p>
<p><b>ものの値段が決まる要素は？</b> ⑮⑯</p> <p>○ものの値段を構成している主な要素について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ペットボトル水を見ただけでは、材料費しかわからないけど、他にもいろいろな費用がかかっている。</li> <li>• ペットボトル水の値段は、主に材料費・販売費・輸送費・設備費・人件費で決まっている。</li> </ul> <p>○学習のふり返しをし、今後の学習課題としてものの値段の決めり方について学ぶことを知らせる。</p>	<p>※ 材料費・販売費・輸送費・設備費・人件費が重なり、ものの値段を構成している主な要素を理解しやすいように提示する。</p> <p>(評)ペットボトル水の値段は、材料費以外にも様々な費用がかかり、値段が決定している経済の仕組みを考えられたか。【学ぶ力】【問題を見つける力】</p>

どうすれば値段が決まるの？

⑰

- ものの値段の決め方を考える。
- 1,000円で売りたい人と500円で買いたい人だと、売買が成立せずものの値段は決まらない。
- 売りたい人は、いくらまで値下げすることができるかな？
- 買いたい人は、いくらまでならお金を出せるかな？

ものの値段は、だれがどのようにして決めているのだろう。

⑱⑲  
本時

- 売り手… 原価をわってしまおうと赤字になるので、赤字にならずたくさんのもうけ(販売費)がほしい。
- 買い手… 所持金が少ないのでできるだけ安く買いたい。
- 学習のふり返りをし、今後の学習課題としてものの値段の変動について学ぶことを知らせる。

ものの値段は安定するの？

⑳

- ものの値段の変化について考える。
- 東日本大震災の後で聞き取り調査したら、品不足の商品は値上がりしていた。値上がりは困る。
- ものの値段が下がるとうれしい。

ものの値段が上がるのは困るけど、下がるのはいいことだろうか。

㉑㉒

- 調査3「需要と供給のバランスが崩れるとどうなるのだろう」
- 買いたい人(需要)に比べ売りたい人(供給)が多すぎると、ものの値段はどうなるのだろう。値段は下がる。
  - ものの値段が下がると、ほしいものがたくさん買えていい。
  - ものの値段を下げるには、材料費・販売費・輸送費・設備費・人件費などを下げなくてはならない。
  - 需要が少なく供給が多いので、ものが売れずものがあまるから値段は下がる。…デフレーション
  - 需要が多く供給が少ないので、ものがよく売れものが足りなくなるから値段は上がる。…インフレーション

ものの値段を安定させる方法は？

㉓

- 需要と供給のバランスをとる方法について、それぞれの立場で考える。
- 需要…消費者は、買いだめをしないで必要なものを必要なときに必要なだけ買う。
- 供給…販売者や生産者は、需要を調査・把握し計画的に生産したり販売したりする。
- デフレやインフレにならず、ものの値段を安定させるための日本銀行の役割を調べる。 → 次単元

※ものの値段を決める体験的な活動を取り入れ、価格は両者の考え方により決定することを実感する。

■売り手には、原価を伝え原価をわると赤字になってしまうことを確認し、買い手には所持金を伝える。

評)ものの値段は、売る人(供給)と買う人(需要)のどちらか一方が決めるのではなく、両者の取引によって決まる経済の仕組みを考えられたか。

【学ぶ力】【生活に生かす力】

■東日本大震災後の、スーパーやコンビニでの聞き取り調査の資料を基に考える。

※外部機関の静岡財務事務所による「経済教室」の支援を受け学習を深める。

■ものの値段が下がることによる問題点を考える。  
■デフレーションとは、ものの値段が下がり続けること、インフレーションとはものの値段が上がり続けることであり、ものの値段は安定が大切である。

評)供給が多すぎるとデフレになり、需要が多すぎるとインフレになる経済の仕組みを考え、日本銀行の役割について関心をもつことができたか。【問題を見つける力】【学習への態度】

■次の単元は、「日本銀行について調べよう!」であり、個人テーマを設定し個人で調べることを知らせる。



### 資料3 「金融教室」

6年生 総合的な学習の時間 授業案

- 1 協力機関 焼津信用金庫
- 2 日 時 平成23年6月21日(火) 1組 第2校時(9:20~10:05)  
2組 第3校時(10:25~11:10)
- 3 場 所 6年各教室
- 4 単 元 名 「西小プロジェクト2011 私たちの暮らしと経済」  
経済の仕組みを調べよう! 6月…「金融教室で学ぼう」

#### 5 本時の目標

「ペットボトル水の値段がどのようにして決まるのか」を考え話し合う活動を通して、ペットボトル水の値段は、水や容器・ラベル代の材料費だけでなく、設備費・人件費・輸送費・販売費などの費用(コスト)がかかり値段が決定していることを理解する。

#### 6 本時の展開

学 習 活 動	■ 留意点 ※ 支援 (評) 評価				
<b>ペットボトル水の値段は、どのようにして決まるのだろうか？</b>					
<p>○販売価格120円のペットボトル水を例にして考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペットボトル水を見てわかるものを発表する。</li> <li>・中身の水の値段・容器の値段・ラベルの値段 → 材料費</li> </ul>	<p>■ 水にも値段があり、家庭や学校で使っている水道水も料金を払っていることを確認する。</p>				
<b>ペットボトル水の値段は、水・容器・ラベルの3つで決まるのだろうか。</b>					
<p>○水の値段・容器の値段・ラベルの値段だけでペットボトル水の値段が決まると、それを売っているお店のもうけがなくなってしまう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペットボトル水を工場から運ぶトラックの費用は？</li> <li>・ペットボトル水を作る機械の費用は？</li> <li>・ペットボトル水を作る工場働く人の給料はどうなるの？</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;">                 ペットボトル水を売るお店のもうけも必要だ。 → 販売費             </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;">                 工場からお店に運ぶトラックの費用も必要だ。 → 輸送費             </td> </tr> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;">                 ペットボトル水工場の機械を作る費用も必要だ。 → 設備費             </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;">                 ペットボトル水工場働く人の給料も払う。 → 人件費             </td> </tr> </table> <p>○本時の学習のふり返りを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペットボトル水を見ただけでは、材料費しかわからないけど、他にもいろいろな費用がかかっている。</li> <li>・ペットボトル水の値段は、主に材料費・販売費・輸送費・設備費・人件費で決まっている。</li> </ul> <p>○次に調べたいことを書き発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じペットボトル水でも、スーパーやコンビニによって値段が違うのはなぜだろう。</li> </ul>	ペットボトル水を売るお店のもうけも必要だ。 → 販売費	工場からお店に運ぶトラックの費用も必要だ。 → 輸送費	ペットボトル水工場の機械を作る費用も必要だ。 → 設備費	ペットボトル水工場働く人の給料も払う。 → 人件費	<p>■ 水・容器・ラベルの値段をまとめ材料費とする。</p> <p>※ペットボトル水を作る工場・そこで働く従業員・輸送用トラック・販売するスーパーマーケットなどの図を提示し、思考の助けとなるようにする。</p> <p>■ 子ども達に身近なスーパーマーケットのもうけ(販売費)から考えさせ、トラックでの輸送費・工場での人件費・設備費へと発展させていく。</p> <p>※ペットボトル水の図に、材料費・販売費・輸送費・設備費・人件費が順番に重なり、ペットボトル水の値段を構成している主要素を理解しやすいように提示する。</p> <p>(評) ペットボトル水の値段は、材料費以外にも設備費・人件費・輸送費・販売費などの費用がかかり、決定していることを理解できたか。</p>
ペットボトル水を売るお店のもうけも必要だ。 → 販売費	工場からお店に運ぶトラックの費用も必要だ。 → 輸送費				
ペットボトル水工場の機械を作る費用も必要だ。 → 設備費	ペットボトル水工場働く人の給料も払う。 → 人件費				

資料4 「経済教室」

6年生 総合的な学習の時間 授業案

- 1 協力機関 静岡財務事務所
- 2 日 時 平成23年7月19日(火) 1組 第2校時(9:20~10:05)  
2組 第3校時(10:25~11:10)
- 3 場 所 6年各教室
- 4 単 元 名 「西小プロジェクト2011 私たちの暮らしと経済」  
経済の仕組みを調べよう! 7月…「経済教室で学ぼう」

5 本時の目標

ペットボトル水の値段が下がることの問題点を話し合う活動を通して、デフレーションとインフレーションの言葉の意味を知り、ものの値段が安定する方法を考える。

6 本時の展開

学 習 活 動	■ 留意点 ※ 支援 (評) 評価				
<p>○東日本大震災後のように、需要と供給の関係が崩れると品不足になった商品の値段が上がる。</p> <p>・ものの値段が、上がることは困るけど下がることはいい。</p>	<p>■ 5月の聞き取り調査を思い出させ、値段が上がる状況を確認する。需要&gt;供給</p>				
<p><b>ものの値段が下がることは、いいことなのだろうか。</b></p>					
<p>○ペットボトル水の値段が下がる原因は?</p> <p>・買いたい人があまりいないけど、売りたい人や売りたい商品がたくさんある。ペットボトル水があまっている。</p> <p>・ペットボトル水があまっているので安くしないと売れない。売れ残ってしまう。</p> <p>○ペットボトル水の値段を下げる方法は?</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;">                 販売費→原価ギリギリにして、お店のもうけを減らす。赤字にはできない。お店で働く人の給料を下げる。             </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;">                 輸送費→トラックの費用やガソリン代は安くできない。高速道路を使わない。             </td> </tr> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;">                 設備費→ペットボトル水工場の機械はもうできているので費用は変えられない。機械は安くできるの?             </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;">                 材料費→材料は変えられない。 人件費→ペットボトル水工場働く人の給料を下げる。             </td> </tr> </table>	販売費→原価ギリギリにして、お店のもうけを減らす。赤字にはできない。お店で働く人の給料を下げる。	輸送費→トラックの費用やガソリン代は安くできない。高速道路を使わない。	設備費→ペットボトル水工場の機械はもうできているので費用は変えられない。機械は安くできるの?	材料費→材料は変えられない。 人件費→ペットボトル水工場働く人の給料を下げる。	<p>■ 2ℓ入りのペットボトル水を例に考える。</p> <p>■ 既習の需要と供給の関係を思い起こさせ、需要が少なく供給が多いものがあり、ペットボトル水の値段が下がることを確認する。</p> <p>■ ものの値段の5つの構成要素から、ペットボトル水の値段を下げる方法を考える。</p> <p>※ ペットボトル水を作る工場・そこで働く従業員・輸送用トラック・販売するスーパーマーケットなどの図を提示し、思考の助けとする。</p> <p>■ ペットボトル水の値段を下げるためには、人件費の削減が必要であることに気づかせる。</p> <p>※ ものの値段が下がり続けることをデフレといい、ものの値段が上がり続けることをインフレという。インフレもデフレもよくないことである。</p> <p>(評) ものの値段は安定することが大切であり、安定させる方法を考えることができたか。</p> <p>※ 消費者の立場と販売者・生産者両方の立場でできることを考えさせる。</p> <p>■ 日本銀行の役割として、物価安定政策があることを知らせ日本銀行に興味を持たせる。</p>
販売費→原価ギリギリにして、お店のもうけを減らす。赤字にはできない。お店で働く人の給料を下げる。	輸送費→トラックの費用やガソリン代は安くできない。高速道路を使わない。				
設備費→ペットボトル水工場の機械はもうできているので費用は変えられない。機械は安くできるの?	材料費→材料は変えられない。 人件費→ペットボトル水工場働く人の給料を下げる。				
<p>○値段が下げられるところはどこかな?</p> <p>・値段が下げられるところはほとんどないな。</p> <p>・値段を下げるためには、お店や工場働く人の人件費(給料)を下げなくてはならない。</p> <p>・お店や工場働くお父さんお母さんの給料まで下がる。給料が下がるのは困るな。</p> <p>○ものの値段を安定させるためにできることは?</p> <p>・消費者は、買いためをしないで必要なときに必要なものを必要な量だけを買う。</p> <p>・販売者や生産者は、消費者の意識を把握し需要を予測して販売したり生産したりする。</p> <p>・需要と供給の関係が崩れないようにする。 → 日本銀行</p> <p>○ふり返りを書こう。</p> <p>・本時をふり返り感想を書く。</p>					

## 資料5 ものの値段を決める体験的な活動

6年生 総合的な学習の時間 授業案

### (1) 本時の目標

中古ゲームソフトの値段を決める体験的な活動を通して、ものの値段は売り手(供給者)と買い手(需要者)どちらか一方が決めるのではなく、売りたい値段と買いたい値段が同じになったとき、ものの値段が決まることを理解する。【学ぶ力】

### (2) 本時の展開

学 習 活 動	■ 留意点 ※ 支援 (評) 評価				
○売り手(供給者)は1,000円で売りたい。買い手(需要者)は、500円なら買ってもよい。→ これではものの値段は決まらない。	■ 売り手(供給者)と買い手(需要者)の考え方の違いを明確にし、値段が決まらないことを確認する。				
<b>ど う す れ ば 、 値 段 は 決 ま る の だ ろ う 。</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>中古ゲームソフトを売買する体験的な活動を取り入れる。売り手と買い手の立場を設定する。</li> <li>売り手 → 原価が600円だから、それ以上値段を下げるともうけ(販売費)がなくなってしまう。できるだけ高く売りたい。でも、売れ残ると困る。</li> <li>買い手 → 900円しか持っていないから、1,000円のものを買えない。できるだけ値引きしてもらい、少しでも安く買いたい。必要なので必ず買いたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※ 売り手と買い手の立場を設定した体験的な活動を取り入れ、ものの値段の決め方をそれぞれ模擬体験する。</li> <li>■ 売り手には、500円では売れない理由を伝え、買い手には1,000円で買えない理由を伝えるが、それぞれ相手の設定(理由)はわからないようにする。</li> </ul>				
<b>中 古 ゲ ー ム ソ フ ト の 値 段 は 、 だ れ が ど の よ う に し て 決 め ま し た か 。</b>					
<p>○値段はどのように決めましたか。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">----- 売り手(供給者) -----</th> <th style="text-align: center;">----- 買い手(需要者) -----</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>原価が600円だから、それよりも値段を下げるわけにはいかない。</li> <li>たくさんもうけがほしいから、できるだけ高く売ろうと思った。</li> <li>1,000円と500円の間で750円にした。</li> <li>買い手と値段を相談して、もうけが少なくとも買い手の値段にあわせた。</li> </ul> </td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>900円しか持っていないので、1,000円のものを買えないから900円にまけてもらい買った。</li> <li>900円よりも安くなったので買った。</li> <li>たくさん値引きしてもらおうようにお願いした。</li> <li>売り手と相談して、このくらいの値段なら買ってほしいなと思って買った。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>売り手と買い手で話し合って値段が決まった。</li> <li>もうけがあれば、値引きしてあげてもいいなと思った。</li> <li>900円より安ければいいので買った。</li> <li>750円なら、売り値と買い値の間なのでいいと思った。</li> <li>□□円なので、買ってほしいなと思える値段になった。</li> <li>□□円で、買い手も売り手も同じ値段になった。</li> </ul> <p>○ふり返りをする。(友達の考え)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友達の考えを聞いて、自分の考えの広がりや深まりを発表者の名前も含めて発言する。</li> <li>前時までの既習内容もふまえて発言する。</li> </ul> <p>○次時の学習課題は、ものの値段の変動について学ぶことを知らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ものの値段が変わるものには、どんなものがあるかな。</li> <li>ものの値段が変わるのは、どんな時かな。</li> </ul>	----- 売り手(供給者) -----	----- 買い手(需要者) -----	<ul style="list-style-type: none"> <li>原価が600円だから、それよりも値段を下げるわけにはいかない。</li> <li>たくさんもうけがほしいから、できるだけ高く売ろうと思った。</li> <li>1,000円と500円の間で750円にした。</li> <li>買い手と値段を相談して、もうけが少なくとも買い手の値段にあわせた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>900円しか持っていないので、1,000円のものを買えないから900円にまけてもらい買った。</li> <li>900円よりも安くなったので買った。</li> <li>たくさん値引きしてもらおうようにお願いした。</li> <li>売り手と相談して、このくらいの値段なら買ってほしいなと思って買った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※ 時間内に商品の売買が成立するように、売り手・買い手ともに値段の一致点を見いだすための助言をする。</li> <li>■ 売り手・買い手それぞれが自分の立場で、ものの値段を決める話し合いを進め価格交渉をする。</li> <li>※ 中古ゲームソフトの値段を決めていく過程を体験することで、値段の決め方について自分の考えを持つ。また、友達の意見を聞き自分の考えを広め深める。</li> </ul> <p>(評)ものの値段は、売り手と買い手のどちらか一方が決めるのではなく、売ってもいい値段(供給)と買ってほしい値段(需要)が同じになったときに、ものの値段が決まることを理解できたか。(ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※ ものの値段は、生産者や販売者が需要を予測し消費者意識を把握し、買い手が「買ってほしいな」と思える値段を付けていることを知らせる。</li> <li>■ 次時は、「ものの値段は安定するの?」を学習課題とする。</li> </ul>
----- 売り手(供給者) -----	----- 買い手(需要者) -----				
<ul style="list-style-type: none"> <li>原価が600円だから、それよりも値段を下げるわけにはいかない。</li> <li>たくさんもうけがほしいから、できるだけ高く売ろうと思った。</li> <li>1,000円と500円の間で750円にした。</li> <li>買い手と値段を相談して、もうけが少なくとも買い手の値段にあわせた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>900円しか持っていないので、1,000円のものを買えないから900円にまけてもらい買った。</li> <li>900円よりも安くなったので買った。</li> <li>たくさん値引きしてもらおうようにお願いした。</li> <li>売り手と相談して、このくらいの値段なら買ってほしいなと思って買った。</li> </ul>				

#### <視点>

(1) どの子ども、根拠を基にした自分の考えをもつことができていたか。

(2) 友達とかかわり、考えを伝え合うことで、子どもの考えに、どんな広がりや深まりが見られたか。